災害 避難に備え

土砂災害の危険が迫ってきた → 家が浸水しそう → 避難勧告が出た → 避難

避難の際携行するもの

❶身につけるもの

☐ ヘルメット・防災ずきん　☐ 手袋　☐ 厚底の靴　☐ マスク

❷リュックに入れて持ち出すもの

☐ 飲料水(500ml 家族各人1本ずつ)
☐ 携行食(ビスケット、チョコレート、カロリーメイト等)
☐ 懐中電灯　☐ 携帯電話　☐ 現金　☐ 保険証・メモカード
☐ 携帯ラジオ　☐ ビニール袋・ポリ袋　☐ タオル・下着・靴下
☐ トイレットペーパー・ティッシュ・ウェットティッシュ　☐ 携帯カイロ
☐ 日常服用している薬　☐ 衛生用品・生理用品　☐ 笛
☐ おむつ・離乳食・乳児用ミルク　☐ 入れ歯・コンタクトレンズ・眼鏡

避難所等で必要になるもの

☐ 簡易食器(紙皿・紙コップ)　☐ スプーン・はし　☐ ライター類
☐ 缶切り・栓抜き・ナイフ　☐ ラップ・アルミホイル　☐ ガムテープ
☐ 非常食として缶詰など　☐ 筆記具・メモ帳　☐ 空の段ボール箱
☐ 着替え・大型タオル・スリッパ　☐ 毛布・寝袋・座布団
☐ 洗面用品・応急医薬品(ばんそうこう・きず薬・胃腸薬・風邪薬・目薬など)
☐ 予備の乾電池・携帯電話の充電器・電池使用ランタン
☐ アイマスク・耳栓・補聴器・入れ歯用洗浄剤　☐ ハンディろ過機(水の清浄)

自宅に備え災害後に役立てるもの

☐ 飲料水(1人1日3ℓ×7日分×家族数)　☐ 食料(7日～10日分程度)
☐ カセットコンロ(予備ボンベ)　☐ 使い捨てカイロ　☐ 簡易トイレまたはポリ袋
☐ ほうき・ちり取り　☐ スリッパ　☐ スコップ・バール・ジャッキ・おの・のこぎり
☐ ウォータータンク・荷物運搬カート　☐ 電力確保備品(発電機等)　☐ ブルーシート

警報と災害の予兆

広島県は土砂災害危険箇所が約32,000か所で全国1位です。

①県土の7割が山地　②山すそまで宅地開発　③崩れやすい「マサ土」

気象状況

大雨の数日～約1日前
大雨の可能性が高くなる
↓
大雨の半日～数時間前
雨が降り始める
↓
雨が強さを増す
↓
大雨の数時間～2時間程度前
↓
大雨となる
↓
大雨が一層激しくなる
↓
広い範囲で数十年に一度の大雨

気象庁の情報

- 警報級の可能性
- 大雨注意報
- 大雨警報(土砂災害)
- 大雨特別警報(土砂災害)

大雨に関する気象情報

土砂災害警戒情報

記録的短時間大雨情報

過去の被災地域、避難に時間のかかる方は早めの行動を!

必要に応じ速やかに避難!

ただちに命を守る行動をとる!

土石流の予兆

- 山鳴りや地鳴りがする
- 立ち木の裂ける音や石のぶつかり合う音がする
- 雨が降り続いているのに川の水位が下がる
- 急に川の水が濁ったり流木が混ざる
- 異様なにおい(木の腐ったようなにおい、土のにおい)

がけ崩れの予兆

- がけから水が噴き出す
- がけからの水がにごる
- がけに亀裂が入ったりふくらんだように見える
- がけから小石がパラパラ落ちてくる

注意報・警報と避難情報について

避難情報は気象情報や観測データ、被害情報に基づいて各自治体により発令されますが、避難勧告や災害情報の限界を理解し、気象情報などを活用し命を守るために早めに自主的に行動しましょう。

主な警報・注意報の発表基準(気象庁)

区分	大雨	地震
予報	大雨になるおそれ雨が降り出す	
注意報	災害が起こるおそれ	
警報	重大な災害が起こるおそれ	—
特別警報	数十年に一度の大雨	震度6弱以上

各自治体により判断

避難情報(自治体)

避難準備・高齢者等避難開始

☐避難に時間を要する人(ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等)とその支援者は避難を開始しましょう。
☐その他の人は、気象情報に注意し、危険だと思ったら、早めに避難しましょう。

避難勧告

☐速やかに避難場所へ避難をしましょう。
☐外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

避難情報(自治体)

避難指示(緊急)

☐まだ避難していない人は、避難所など安全な場所へ避難をしましょう。
☐外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

気象情報をもとに
少しでも危険を感じたら
早めに自主的に避難しよう!

安否確認システムに「発信」しよう

地　震

地震発生

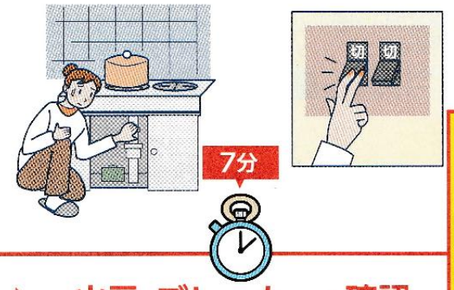
1分 → **身を守る**
机の下など、物が落ちてこない、倒れてこない場所に身を隠し、座布団やクッションなどで頭を覆い安全を確保しよう。

2分 → **靴を履く**
大きな地震が起きた際には窓ガラスや食器が割れてケガをする恐れが。特に停電時は大変危険なので屋内でも靴を履いておこう。

5分 → **出口を確保**
地震で建物がゆがみ、ドアなどが開かなくなることも。いつでも避難ができるよう、窓や玄関の戸を開けて逃げ場をつくろう。

揺れを感じたときの10分間行動の例

地震発生時は、自分の置かれている状況がつかめず、混乱しがち。まずは自分と家族の身を最優先に守ろう。これはあくまで行動の一例。そのときの状況によって判断しよう。



揺れの大きさで状況判断!

7分 → **火元・ブレーカーの確認**

震度5相当以上の地震が起こると「マイコンメーター」が自動的にガスを止めてくれるようになっています。また、通電再開時に火事が起こることも。電気のブレーカーは必ず落とそう。

☑ 地震で怖いのは火事。揺れがおさまったら火元をチェックしよう。
☐ガスコンロ　☐ストーブ　☐タバコ
その他に火が出る想定場所
(　　)

☑ 水道の元栓もチェックしよう!
地震で水道管を破損したり、断水後、復旧した際に、洗濯機などから急に漏水し、水浸しになったりすることがあります。☐水道の元栓

10分 → **避難**

避難経路に沿って、速やかに避難。

自宅待機 情報収集

地震発生後は、火が広がるおそれが。自宅が安全と判断した場合も、いつでも避難できるように準備しておこう。また、地震発生時は、情報が錯綜しています。うわさなどに惑わされず、正しい判断ができるよう、ラジオなどで正確な情報を収集しよう。

新建自主防災会から住民の皆様へお願い!
避難時、自治会からの防災メールを受信後、スマホ・携帯で、ご自身またはご家族の状況を「安否確認システム」にて”発信”をお願いします。それによって、発信された方とそのご家族の情報が、一覧表で共有でき、次の行動に移ることができます。是非ご協力の程、よろしくお願いいたします。

このマップは「広島市防災まちづくり基金」を活用した、防災まちづくり事業により作成したものです。

製作者　：新建自治会自主防災会
平成30年3月